

坂ノ上信夫 （さかのうえののぶ）、著述家。明治二十四年鹿児島縣生れ（一八九一）。別名坂ノ上言夫、坂上信夫、坂上言夫、坂上信夫等。著書『土地争奪史論』（坂上信夫名、大正十一年）二月十日大同館書店）、『拷問史』（坂ノ上言夫名、大正十五年八月）二十日坂本書店『濠洲叢誌』（）、『無益論文集・第壹輯』（坂上信夫名、合著、昭和四年四月）日本全國無益叢集會所）、讀物集『古與感覺』（坂ノ上言夫名、昭和八年十月）二十日朝日書房）、『御朱印船の人々』（昭和十六年十一月）二十日時代社）、『幕末の海防思想』（昭和十八年四月）二十日東洋堂『東洋堂叢書』（）、『進む朱印船』（昭和十八年五月）二十日華堂日童社『少國民圖書館』（）、『日本の國號』（昭和十九年十一月）十五日日本出版社）、『處女試験』（昭和二十二年二月一日對馬書房）、『おぶじとの』（佐々木柱太郎共編・校訂、昭和二十年六月十五日歴史風俗資料研究会『類聚故事綴り』（）、『勇壯ととかま隨筆』（二十人の武者修行』（合著、昭和二十一年十一月）二十五日あまとり出版）等。

御朱印船の人々 坂上信夫著